まちづくりひろしま

被爆１００年(西暦2045年)の姿をめざして

第４号(平成２５年３月１５日)

読者数：３６１名（募集中）
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：hirosima.idea.c@urban.jp
〒733-0002　広島市西区楠木町 1-9-7
発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二
配信元：広島アイデアコンペ実行委員会
ご提案・ご意見等は、こちらまで

□巻頭言

「イマジン」の世界

編集人　瀧口信二

「想像してごらん　国境なんてないと　ひとは夢追い人だと思うかもしれないが　みんながそう思えば　世界はひとつになる」　そうなれば、北方領土や竹島や尖閣の領土問題などは生じない。多くの皆さんもジョン・レノンの「イマジン」の歌を知っていると思う。ユートピアの世界で現実離れしていると一笑に伏されそうだが、「一人で見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる―オノ・ヨーコ」は論理的には正しい。ただ、現実が伴わないだけだ。

広島も世界初の被爆地として、地球上の核兵器廃絶を強く訴えているが、なかなか浸透していかない。オバマ米大統領は「核兵器なき世界」を将来の目標に掲げる演説を行ったことでノーベル平和賞を受賞したが、現実には遅々として進まない。２月には北朝鮮が３回目の核実験を強行し、核拡散の危機は募るばかりだ。

頭では分かっても、行動が伴わないことはよくある。なぜだろう？自己の利に囚われているからか？みんな自分かわいさで、自分のことを第１に考えている。それは自己防衛本能だから当然のことだ。一方で、人間は相手のことも考えることができる。「イマジン」だ。「イマジン」の力を養うことで人格が形成され、品格が伴う。

松井市長は機会あるごとに広島を「世界に誇れるまち、品格のあるまち」にしたいと発言している。市のホームページを読むと、その実現のために「活力とにぎわい」、「ワーク・ライフ・バランス」、「平和への思いを共有するまち」の視点からアプローチするという。

品格のあるまちとは、一つの視点として「イマジン」の世界を実感できることではないか。経済発展一辺倒に励んだ高度経済成長期が終焉して久しい。少子高齢化が進み、人口も経済も縮小傾向に入る一方、持続可能な社会の構築が叫ばれている。否応なく人生の価値観の転換が迫られる。過当競争が緩和され、時間のゆとりが生まれ、自分のことだけでなく、周りのことも考えられる精神的なゆとりが生まれてくるであろう。そんな社会がやってくれば、平和な世界を想像する人が増えてくる。広島は「イマジン」の世界に一歩でも近づくためのまちづくりが今求められているのではないか。

平和への思いを共有するには平和を学び、考えるとともに、生きている喜びを感じ、平和を実感できることが必要である。人々に感動を与えるスポーツや文化・芸術等も大事だし、散策したり、のんびり寛いだり、楽しく遊んだりすることもリフレッシュに良い。そのような場を公園や公共建築等の多くの市民が利用できる空間に設けていくべきではないか。そうすれば、「イマジン」の力を発揮して、世界の平和を考える人が増え、品格のあるまちに近づくことができる。

このメルマガ「まちづくりひろしま」も、その実現に向けて少しでも寄与できることを目指したい。

読者の皆さんの投稿をお待ちしています。読者参加型のメルマガに！

ひろしまのまちづくりの動き

○旧広島市民球場跡地委員会が最終報告書を提出！

１月２５日、第７回跡地委員会が開催され、旧広島市民球場跡地の活用について最終報告（案）が承認された。昨年８月の中間とりまとめから進展はみられない。

結論は、相応しい機能として【文化芸術機能】、【緑地広場機能】、【スポーツ複合型機能】に【文化芸術＋緑地広場機能】が追加されたが、実現の可能性等については全く触れられていない。

今後はこの報告書を踏まえて市の方で検討し、最終的には３月末までに市長が決断を下すことになる。

第７回跡地委員会傍聴
（2013 年 1 月 25 日）

傍聴しての感想

旧球場跡地をターゲットに若者のにぎわいの場にしたいという、最初の目標設定に問題があった。中央公園全体の在り方を示したうえで、球場跡地を検討すれば、早く解答が導き出されたであろう。市内部の「中央公園の今後の活用にかかわる検討状況（中間報告）」が公表された昨年１１月末の時点で、本委員会の役割は終えてしまった。

○日本建築家協会広島地域会にまちづくりワーキングを設置

昨年１１月末の旧広島市民球場跡地委員会（第６回）を傍聴した後、広島に住む建築家としての意見を提言する必要性を感じた。日本建築家協会中国支部役員会の承認を得、広島地域会に「ひろしままちづくりワーキング」を１２月に立ち上げる。

会員から参加希望者を募り、４人のメンバーで年末に第１回目をスタートした。以降、これまで６回の検討を終え、提言の全容が見えてきたので、ここにその概要を簡単に報告する。

ワーキング風景

ワーキング・メンバー（JIA 会員）
高志俊明、高橋幸子
瀧口信二、前岡智之（座長）

１．中央公園全体のビジョン

少子高齢化社会や地球環境問題等により、持続可能な社会に移行し、我々の生活スタイルも変わっていく。新たなニーズに対応した中央公園が求められている。一方で、平和公園と中央公園は一体となって国際平和文化都市ひろしまのコアであり続ける。

２．ひろしま市民ひろばのビジョン

旧市民球場跡地は平和公園と中央公園を結ぶ要の地である。市民の願望により作られた旧市民球場が市民のエネルギーの復活の場であったように、ひろしまの・世界の中心として市民のエネルギーの発露の場であり続ける。

３．都市デザインの提案

ひろしま市民ひろばを中心に中央公園全体の価値を高めるため、中央公園の周辺も含めたエリアの具体的な提案を行う。

４．新しいまちづくり手法等の提案

従来の条件適応型の計画手法ではなく、市民が主体となった課題解決型のまちづくり手法を導入するとともに公園の管理運営についても市民との協働を提案する。

５．マスタープラン等の提示

具体的なイメージを伝えるために全体配置図、模型写真、スケッチ等を添付する。

＊３月末までには公表する予定である。

○広島市中央公園の計画変遷をたどる

＜Ｉ＞　中央公園は中島公園（今の平和記念公園）と一体の『平和記念施設』として構想された

①　戦災復興都市計画の公園計画

✧　被爆後の広島の復興を進めていくため、昭和２１年、「特別都市計画法」に基づき「戦災復興都市計画」が策定され、広島の新しい都市づくりが始まる。

✧　この「戦災復興都市計画」には、中島公園（現在の平和記念公園・10,72ha）と中央公園（70,48ha）が計画決定され、復興計画の特徴的思想たる公園緑地拡大思想が大きく開花した。（図―１）

②　平和記念都市建設法の誕生

✧　昭和２４年５月、憲法９５条による日本で初めての特別法「広島平和記念都市建設法」が制定され、広島市を世界平和のシンボルとして建設することが国家的事業として確立される。（注１）

✧　同法では一般の都市計画のほかに、恒久の平和を記念すべき施設（『平和記念施設』と云う）を含めることが出来るとされ、国から特別の援助を受けることが約束された。

✧　この『平和記念施設』に関して、昭和２４年版「市勢要覧」（廣島平和記念都市建設法制定記念号）によると、「平和都市広島を象徴する事業として中島、中央両公園を平和記念公園とし、ここに平和記念館、記念碑、運動競技場などを設置して世界平和に寄与するとともに、国際人交流の一大中心地とする予定である」と明記されている。

③　「戦災復興都市計画」から「平和記念都市建設計画」へ

✧　平和記念都市建設法の制定に伴い更に広島市は昭和２５年１０月、平和都市の理念を説くところから始めた「廣島平和都市建設構想案」（広島市公文書館所蔵）を策定した。この構想案をもとに様々な協議会・委員会において、平和都市の将来のあり方についての検討が進められた。

✧　この「廣島平和都市建設構想案」では、平和公園について「理想的な公園を造成し、平和の源泉たるにふさわしい緑園としたい。爆心地であると同時に市の中心を含む地帯に約８５ｈａの平和公園を造成する」と記述されており、平和都市建設という他の戦災都市には追随できない理想を掲げ、公園緑地拡大思想を一大平和公園へと発展させている。

✧　以上の構想は市独自のもので、国による法定計画として昭和２７年３月、「戦災復興都市計画」に置き換わる「平和記念都市建設計画」が決定された。この計画が今日の広島市の都市計画の根幹をなしている。

④　「平和記念都市建設計画」における『平和記念施設』

✧　広島市の独自計画で中島公園と中央公園は、一体の『平和記念施設』として計画されていたが、この「平和記念都市建設計画」においては、中島公園と原爆ドーム区域だけが、『平和記念施設』として計画決定され、中央公園は『平和記念施設』から外された。（図―２）

✧　広島市の『平和記念施設』の一大構想が大幅に縮小された主な要因は、国家財政の緊縮により戦災復興事業の大幅な圧縮が国から強力に求められたこと、当時の計画決定権限が国にあったこと等によると考えられる。

（図―１）戦災復興都市計画
昭和２１年（１９４６年）

都心の大公園に中島公園、
中央公園を計画決定

（図―２）平和記念都市建設計画
昭和２７年（１９５２年）

中島公園、原爆ドーム区域を
『平和記念施設』に計画決定

（図―３）同左計画の変更
昭和３１年（１９５６年）

基町一団地の住宅施設を
中央公園から区域除外

＜Ⅱ＞　中央公園の整備計画策定と計画の特徴

①　公園区域の変更

✧　終戦直後、広大な旧軍用地であった基町の公園用地の大半には、戦災者向けの応急的住宅が建設されていた。あくまで応急措置であったが、その状態が長年にわたり継続し、住宅地としての性格を無視し得なくなった。このため昭和３１年、中央公園の一部（13,25ha）を削って、「基町一団地の住宅施設」が計画決定され、中層アパートの建設が始まった。（図―３）

✧　昭和３０年には平和記念公園の整備が一応完成し、中央公園についても住宅再開発の進捗に合わせて、公園予定地を本来の目的に沿って整備することが急務とされた。

②　計画策定の経過

✧　昭和４１年、広島市は明治百年記念事業として中央公園を本格的に整備することとし、（社）日本公園緑地協会に整備計画の策定を委託した。東京大学横山光雄教授らが中心となり「広島中央公園計画」として翌年まとめられ公表された。（注２）（図―４）

✧　広島市はこの計画を基にして、一部変更を加えながら昭和５５年に中央公園を整備完成させた。

③　当初の「広島中央公園計画」の特徴

・幹線及び主要道路により公園が細分化されており、ゾーニングにより施設活用を図る。
・各ゾーンは利用者の利便と安全を図るため、立体的な歩行系統（歩道橋）を確立する。
・近接の平和公園との施設の分化、利用の一体化を図る
・公園と一体となって河川水面の利用を図り、河岸にボートセンターを置く。
・野球場の移転跡地は市民の戸外活動空間として集合・運動等の出来る「自由広場」とする。

（「自由広場」の説明）　既設の野球場（昭和３２年完成）は他に総合運動公園を計画し、その一施設として設けるべきものである。この空間は単に一つの広場ではなく、平和公園と中央公園との結びのため重要なものである。両公園が一体化するための繋ぎとして本広場から平和公園への連絡のための横断陸橋を架設する。「広島中央公園計画」（昭和４２年）より抜粋

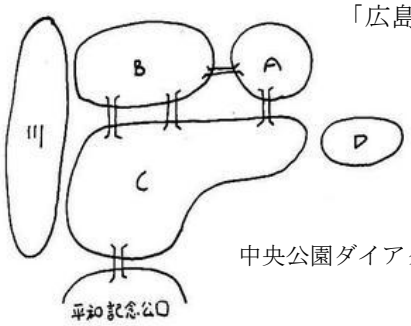
＜Ⅲ＞　球場跡地利用の論議のあり方

✧　世界で初めての被爆体験に基づく先人たちの崇高な平和都市の理想を受け継ぎ、未来へと発展させていくことが現在の私たち広島市民の責務である。

✧　球場跡地の機能の組み合わせに矮小化することなく、平和記念公園との一体化に配慮し、中央公園の全体の計画理念を明確にすべきである。

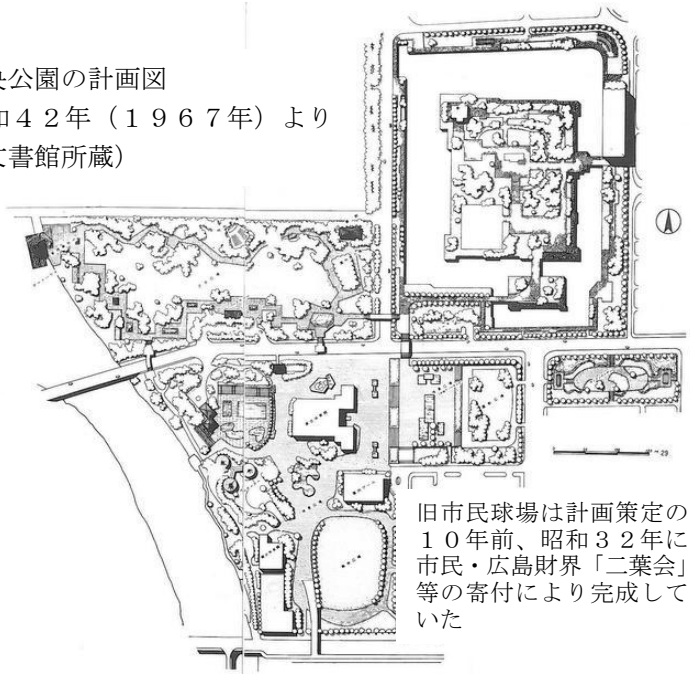
✧　一地方都市の都心の賑わい創りを目指すのか、または世界の平和都市ヒロシマを目指すのか。急ぐ必要はない、しっかり時間をかけて幅広い市民の合意形成を図っていきたい。　　（高東博視）

（図―４）当初の中央公園の計画図
「広島中央公園計画」昭和４２年（１９６７年）より
（広島市公文書館所蔵）



中央公園ダイアグラム

Ａゾーン：城を中心とした静的な鑑賞的利用の区域
Ｂゾーン：市民のピクニック、休養、集合情操的広場
Ｃゾーン：活動的な戸内施設、文化・教化施設に対する人工広場的な戸外空間
Ｄゾーン：分離された小区域で、周辺の土地利用形態と密着させた静的空間



旧市民球場は計画策定の１０年前、昭和３２年に市民・広島財界「二葉会」等の寄付により完成していた

注１　憲法９５条では、一の地方公共団体だけに適用される特別な法律をつくることが出来ると定められている。
「広島平和記念都市建設法」第１条（目的）この法律は、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする。

注２　広島市発行「都市公園」（昭和４３年）及び（社）日本公園緑地協会発行「公園緑地」昭和４４年№２に「広島中央公園計画」の概要が掲載されている。

○昨年のアイデアコンペの中から提案！

当面、２０１１年に行った広島市中央公園アイデアコンペの提案作品の中から市民の多くが良いとした案を紹介していく。

・佳作　作品番号３０（タイトル「未来へつづく新たな広島の姿」）

ゾーニング・配置計画

広島平和記念都市建設法の精神をくみ取り、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、どうあるべきかを真摯に問いかけて提案している。

広島の特徴である水辺空間を活かすこと、情報・芸術といったメディアを用いて平和を発信すること、平和だけでなく都市の魅力を一層高めて世界に発振することを謳っている。

具体的には川辺に船着き場・デッキ・河上レストランを、球場跡地に平和音楽堂を、既存文化施設の集約配置等を提案。さらに周辺エリアの公営アパートの用途変更や平和大通りまで提案の対象を広げている。

他県出身の学生がこれほどまでに深く広島のことを考えていることに敬意を表したい。

＊受賞者：大上泰弘氏（神戸大学大学院学生）のコメント＊

コンペを振り返ると、まちづくりに対して、様々な分野の有識者の方々や一般市民の方々を交えた討論の必要性・重要性を再認識しました。まちづくりは、単にまちを「更新」していく側面だけではなく、そこに根付いてきた歴史や人々の営みを「継承」していく側面があると思います。そして、世界の原爆の歴史と広島が辿った復興の歴史を決して風化させることなく後世へ継承していくには、時代のニーズに則して単に「更新」されていくのではなく、「継承」すべきものは何かということを明確化していく必要があると思います。そのため今後も、世代や国境を越えて、より多角的な視点から広島を見つめ、将来の姿に反映されることが望まれます。

○紹介　まちづくり関連の団体とその動き

広島の町を良くしようと日々努力している人たちを応援するために、まちづくりに寄与している団体等を紹介していきたい。

・セトラひろしまの紹介

ＮＰＯ法人セトラひろしまは、市民と商店街（＊広島市中央部商店街振興組合連合会）が連携し、市民の知恵や力、人材を積極的に取り入れながら、広島市中央部地域（センターエリア＝「セトラ」）の魅力的な賑わいの創出、さらなる発展と活性化を目指し、広島市中央部の「まちづくり」を目的とした様々な活動を行っています。

主な活動としては、えべっさん、アリスガーデンパフォーマンス広場ＡＨ！、インディーズの祭典“INDIKET”など、街の感性価値を形成する市民参加の祭りやイベントの開催。
アリスガーデン、並木通り、袋町公園など公共空間のお花や緑の維持管理、美化・清掃活動。
中央公園での冒険遊び場づくり活動（もとまち自遊ひろば）。
岡本太郎「明日の神話」広島誘致活動、HIROSHIMA 1958「エマニュエル・リヴァの広島」展、「新藤兼人　百年の軌跡」など、様々な文化プロジェクトの事務局業務。
また、「広島文化会議準備会」のメンバーとして、旧広島市民球場跡地を起点とした、新たな市民文化創造の場＝『明日の広場』の形成と、広島におけるグローバルな文化・芸術祭の開催を提唱する活動を行っています

袋町公園花植え

会場盛り上がり

▼ホームページ：http://www.cetra.jp/npo/

本当に幅広い活動を通して、ひろしまのまちに元気と活力をもたらしている。他の地域も触発されて、ひろしま全体が活気づくことを願う。

□ほっとコーナー　『素人の野菜作り』

松尾　彰

昨年３月の退職をきっかけに、畑をすることにした。友人の「耕耘機で耕してやるから、お前は石ころを拾うだけでよい」という一言で決心した。住んでいる団地は造成の悪い欠陥団地なので、土地が売れない。幸いなことに百坪の隣地も売れていない。そこで、地主にお願いして貸していただくことにした。なんと石ころの多かったことか。題名は忘れたが「畑に埋まっているという金銀を探してさんざん掘っても見つからず、お陰で畑が豊作になった」という民話を思い出しながら拾った。

畑作りの師匠も多く、いつの間にか、苗が植わっていることも再々である。ビギナーズラックもあったと思われるが、おかげで、昨年は沢山の野菜を収穫することが出来た（写真）。きゅうり、なす、トマト、キャベツ、かぼちゃをはじめとして 20 種類くらいの野菜を季節ごとに楽しむことができ、ほとんど自給自足することができた。新鮮で安全な野菜を東京の孫に送ってやることもできた。何よりうれしいのは朝食のときにきゅうりやトマトなど必要な食材を畑からすぐに調達できることだ。良く熟れているので味も違う。

私の仕事はもっぱら雑草抜きと青虫除去であった。太陽の恵みを受けてすくすく育つ雑草を見て、つい太陽光パネルを連想してしまった。技術がこれほど進歩した現代なのにその有効利用はできないのかと、雑草を抜きながら不思議に思った。約 30 年前、西条の地に引っ越してきて以来、地元の人や友人からよく野菜をいただいて感謝した記憶がある。一方、自分が野菜を作ってみてわかったことは、野菜は食べきれないくらい一度になるということだった。おかげでもらってくれる人を探すという新しい仕事が増えた。
二年目となりこれから真価が問われる。もう少し勉強しなければと思っている。昨年の暮れに大学の先輩から古代エジプトから出土したという「ツタンカーメンの豆」というのをいただいた。どんな豆ができるのか今から楽しみにしている。

□読者からの反響

前号の平岡氏の巻頭言「比治山への思い」に対して、「我々が忘れている視点。確かに、ＡＢＣＣの返還なしに、広島の戦後は終わらない！」、「比治山芸術公園計画は昭和５５年の政令市移行記念事業。素晴らしい計画が忘れられている」という２通の返信メールがあった。